

◎天城山を中心とした

伊豆市の ハイキングコース

24選

伊豆市

- 伊豆市の全体図……………表 2
- 伊豆市の自然…………… 1
- 楽しいハイキングのために…………… 1
- 1 修善寺温泉史跡・文学散歩…………… 2
- 2 いろは道～奥の院・桂大師…………… 4
- 3 桂谷 88ヶ所めぐり…………… 6
- 4 修善寺歩道…………… 8
- 5 金冠山・きよせの森…………… 10
- 6 達磨山…………… 12
- 7 コビサワラ原生林…………… 14
- 8 天城シャクナゲコース…………… 16
- 9 天城縦走…………… 18
- 10 皮子平…………… 20
- 11 湯道・熊野山33観音めぐり…………… 22
- 12 天城遊歩道…………… 24
- 13 吉奈～船原遊歩道…………… 26
- 14 狩野城跡…………… 28
- 15 太郎杉歩道…………… 30
- 16 踊子歩道…………… 32
- 17 八丁池…………… 34
- 18 野鳥の森・八丁池…………… 36
- 19 三筋山遊歩道…………… 38
- 20 伊豆山稜線歩道(1)…………… 40
- 21 伊豆山稜線歩道(2)…………… 42
- 22 西伊豆歩道・通り崎コース…………… 44
- 23 西伊豆歩道・丸山コース…………… 46
- 24 西伊豆歩道・廻り崎コース…………… 48
- ハイキング帰りの入れる日帰り温泉・花ごよみ……………表 4

● 本書の使い方 ●

地図は北が上というのが基本であるが、コースによっては歩き始める起点が北以外にした方がわかりやすいこともあるので、逆にしたコースもあります。方位にとらわれないことなく、楽しく歩いてください。

散歩程度の短いコースから本格的な健脚向まであるので、自分の体力・経験によって選んで歩いてください。所要時間は個人差がありますし、休憩時間は含まれていませんので十分余裕をもって計画を立ててください。



- | | | |
|----|----------|------|
| 凡例 | バス路線 | トイレ |
| | ハイキングコース | 石碑・墓 |
| | 川(滝・ダム) | 石仏 |

伊豆市の自然

■ 気象

伊豆半島のほぼ真ん中に位置する伊豆市は海拔0メートルから、1,406メートルの最高峰・万三郎岳まで標高差のある自然に溢れた町である。冬でも暖かくほとんど雪や霜が降りることはなく温暖な気候に包まれているが、天城山などの山間部では雪の降ることがある。海岸部では晴れていても天城山では雨ということもあり、天城山の年間雨量は3,000ミリを越すこともしばしばある。

■ 動物

温暖な気候と亜熱帯の海岸から変化に富んだ山野を持つ伊豆市には数多くの動物が生息している。特に天城山にはイノシシやシカ、タヌキ、ウサギなどが見られ、八丁池や猫越岳山頂の池では天然記念物のモリアオガエルがいる。また、オオルリ、コルリ、ミソサザイ、コマドリ、ホトトギス、ウグイス、コガラなどの野鳥も多い。亜熱帯植物の多い海岸線には昆虫類も多く見られる。

■ 植物

天城九木に代表される森にはブナをはじめヒメシャラ、カエデ類、アセビなどのほか、天城固有種のアマギシャクナゲ、アマギツツジなどが混生している。また、桜の種類も豊富でソメイヨシノはもちろん、オオシマザクラ、修善寺桜、修善寺寒桜、土肥桜、最福寺枝下桜、マメザクラ、江戸彼岸桜、枝下桜ほか桜の宝庫となっている。

楽しいハイキングのために

寝不足・飲酒・体調不良の時は、出掛けるのはやめましょう。無理な行程を組まないで、余裕をもった計画を立てましょう。また、思わぬ事故や天候の急変、積雪、危険な動植物に遭遇した場合に対処できるようにしっかりした装備をして安全登山を心掛けましょう。出掛ける時は家族に知らせていきましょう。

ハイキングのマナー

- ゴミは必ず持ち帰ろう
- 動植物は採らない
- 歩行中は禁煙
- たき火・タバコの投げ捨て厳禁
- 他人の土地・建物に入らない
- 畑の野菜・果物を採らない
- コースを外れない
- 大声や大きな音をたてない
- 挨拶を交わそう

装備

必要

便利なもの

- 長袖・長ズボン
- つばの広い帽子
- くるぶしまで隠れる登山靴
- デイパッグ
- いたみにくい弁当
- 水筒
- 雨具
- 着替え
- ヤッケなどの防寒具
- 救急医療品
- 手袋
- 非常食・行動食
- 時計
- 携帯電話
- 地図・コンパス
- タオル

- カメラ
- 双眼鏡
- 図鑑
- 懐中電灯
- ラジオ
- ライター
- ナイフ
- 使い捨てカイロ
- 虫よけスプレー
- 呼笛



- 1～24 はハイキングコース
 ①～⑨ は日帰り温泉施設(裏表紙参照)
- 伊豆市観光協会修善寺支部 ☎ 0558-72-2501
 - 伊豆市観光協会中伊豆支部 ☎ 0558-83-2636
 - 伊豆市観光協会天城支部 ☎ 0558-85-1056
 - 伊豆市観光協会土肥支部 ☎ 0558-98-1212

お問合わせ先

1 修善寺温泉史跡・文学散歩

修善寺温泉は弘法大師が発見したと伝わる伊豆最古の温泉。歴史と自然に囲まれた温泉地は、源氏三代の悲劇の舞台となった所。桂川をはさんで温泉情緒たっぷりな風情が残り、古くから多くの文人墨客が訪れ、沢山の名作を残している。岡本綺堂の「修善寺物語」もその一つである。修善寺駅から修善寺温泉駅行き、若しくは戸田行きのバスで7分、修善寺温泉駅で下車。みやげ物店が並び温泉街を行くと日枝神社がある。境内には大きな夫婦杉や天然記念物のイチイガシ、源範頼が住んでいたという信功院跡がある。



▲独鈷の湯

隣が修善寺。寺の前を流れる桂川の中には「独鈷の湯」がある。その昔、冷たい川の水で病いの父親の体を洗う少年に心打られた弘法大師

が、手に持っていた仏具の独鈷杵で川の岩を砕き、温泉を湧出させて温泉療法を教えたと伝わる伊豆最古の温泉である。毎年4月21日には大師の霊前に献湯する湯汲み式が行われている。



▲範頼の墓

静かな住宅街を範頼の墓へと向かう。源範頼は、兄頼朝の誤解を受けて修善寺に幽閉され、後に梶原景時によって殺された。信功院で自害している。

福地山修善寺は平安初期、弘法大師の開基と伝わる名刹。宝物館「瑞宝蔵」には岡本綺堂の名作「修善寺物語」のヒントになった頼家の面や政子署名の放光般若波羅密多經、頼家の陣旗、範頼の馬具などが展示されているほか天井には川端龍子の「玉取籠」が描かれている。

墓は立派な五輪塔の塔で温泉場外れの高台にひっそりと佇んでいる。畑の中を下って広い舗装道を横断し、「風の径」を行くと赤蛙公園。島木健作の短編「赤蛙」の取材地で梅や杉の木立に囲まれた池には蛙の像がある。

源氏三代の悲劇の舞台となった伊豆の名門・古湯に文人の足跡を訪ねる

川沿いに竹垣のある小道を行くと「ギャラリーしゅぜんじ回廊」がある。回廊式展示場で修善寺の歳時記や花、山野草、日本画などを写真を使って展示している。特に春の桜名所秋の紅葉多所の写真展は好評だ。赤い桂橋を渡ると竹林の小径に入る。真ん中に直径4分の竹製の円形ベンチがあり、ここに覆さへって空を見上げるとリフレッシュできる。歩道の境界には桂垣や光悦寺垣、建仁寺垣などが使われている。



▲竹林の小径

指月殿は一切経堂とも呼ばれ政子がわが子・頼家の真福を祈って「宋版大蔵経」と共に修善寺に寄進したもので、禅宗式の珍しい形の丈六釈迦如来座像が祀られている。

源氏の墓から鹿山を散策するコースを登る。桂谷八十八ヶ所巡拝コースの44番から37番までの8ヶ所を巡るミニコースである。おしやぶり婆さんの石仏や源義経の像、吉田絃二郎・明枝夫妻の墓、明枝の句碑などがある。下ってみゆき橋を渡って左に行けば起点の修善寺温泉駅だ。また、温泉場から修善寺梅林までの山道は「花と文学の散歩道」となっているの併せて歩いてみるのもいい。梅園までちょっときついなりのみゆき橋を渡って左に行き、梅園を抜けて温泉場に向かう方が楽である。

修善寺梅林は2月に紅白3000本の梅が咲く花の名所。遊歩道沿いには修善寺ゆかりの中村吉右衛門、高浜虚子、尾崎紅葉、市川左団次らの句碑と「修善寺物語碑」がある。散歩道を温泉場下り源範頼の墓へと結んで歩いてみよう。



▲修善寺梅林

2 いろは道 奥の院・桂大師

いろは石を辿って弘法大師ゆかりの
奥の院・そして桂大師へ

「色は匂へど散りぬるを、我が世誰ぞ常ならむ、有為の奥山今日越えて、浅き夢見し酔ひもせず、言わずとした手習歌の一つ「いろは歌」である。作者には諸説あるが、平仮名47文字を重複しないように、弘法大師が作ったと伝わる歌である。このいろは文字に「ん」を加えた48文字を刻んだ石碑が、修善寺の山門から湯舟の奥の院までの54棟の間に建てられている。この石碑は明治39年（1906）、弘法大師の熱烈な信者であった東京の日高屋商店・高橋為三郎さんによって寄進されたものである。建てられた当初は僧侶や信者たちの道しるべとして大変喜ばれたという。

いろは石と桂八十八ヶ所の二種類の石碑のほかに信仰の道らしく各所に石仏や石碑などがあるのが、野仏などの見方の参考書を持っていくとより楽しくなる。
修善寺駅から修善寺温泉行きのバスで7分、終点で下車。狭い温泉街を抜けると日枝神社の隣に修善寺がある。
修善寺山門下に弘法大師と刻

建てられて100年以上も経っているの、その後の道路整備や宅地化によって欠けたり失われたものがあつたため、平成3年（1991）4月に全面的に補修が行われた。補修により新旧取り混ぜて48基。修善寺の「い」から奥の院の「ん」まで順に辿って訪ねてみよう。道順に従って分かりやすく設置されているので、探しながら歩くのも面白い。また、いろは道は桂八十八ヶ所巡拝コースの一部にもなっているの、併せて訪ねてみよう。

いろは石と桂八十八ヶ所の二種類の石碑のほかに信仰の道らしく各所に石仏や石碑などがあるのが、野仏などの見方の参考書を持っていくとより楽しくなる。
修善寺駅から修善寺温泉行きのバスで7分、終点で下車。狭い温泉街を抜けると日枝神社の隣に修善寺がある。
修善寺山門下に弘法大師と刻



▲「い」の字の石塔（修善寺）

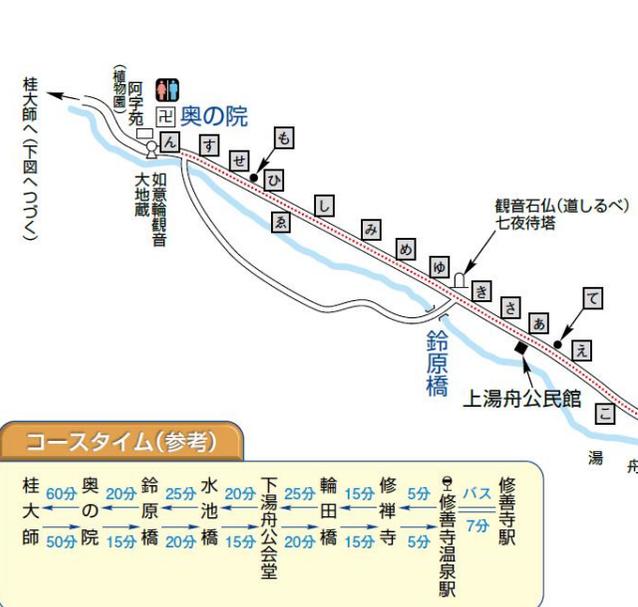
また石塔があり、側面に大きく「い」の文字が彫られている。これが「いろは歌」の最初の「い」の字でいろは道の最初の道標である。
いろは石を順にみつめて奥の院まで行こう。
奥の院は弘法大師が18才の時、修行した所で、駆籠の窟という岩洞がありその崖壁には阿吽の滝がある。滝の前には弘法大師降魔殿という修行石がある。
桂大師は弘法大師が朱塗沢に修行に入った時、四国から持って来たカツラの杖を地面に押し忘れてしまい、それが成長したと伝わる大木である。現在の木は三代目で樹の高さ30m、幹回りの周囲が7.2m、樹齢は1000年と言われ、県の天然記念物に指定されている。根元の洞には大師の石仏が祀られている。
桂大師へは奥の院から湯舟川沿いの林道を1.5km行った広場から川を渡りスギ林の道を登った所にある。
毎年、春の静寂・秋の静寂と題した修善寺から奥の院までのウォーキングが催されている。特製弁当付きで参加料は1000円。
お問い合わせは
伊豆市観光協会修善寺支部
TEL 0558-72-2500



▲いろは石と88ヶ所碑



▲下湯舟公会堂の石造物



コースタイム(参考)

桂	60分	奥	20分	鈴	25分	水	20分	下	25分	輪	15分	修	5分	バス	7分	修
大	50分	院	15分	橋	20分	池	15分	湯	20分	田	15分	善	5分	修	7分	善
師				橋		橋		舟		橋		寺		善		寺

●所要時間：約2時間50分(往路)／約2時間20分(復路)



▲桂大師



▲奥の院



桂大師(カツラの大木の下に弘法大師像) 樹齢1,000年

3 桂谷八十八ヶ所めぐり

修善寺温泉を取り囲む自然の中に
四国霊場巡拝にひとしいご利益を求めて

1200年の歴史と自然に満ちた修善寺温泉は、弘法大師が発見したという湯処・伊豆の名門。この温泉場を囲む自然の中に四国八十八ヶ所を模した桂谷八十八ヶ所がある。

昭和5年(1930)、当時の修善寺38世丘球学老師が四国の各霊場の土を持ち帰り、弘法大師ゆかりの修善寺に移し桂谷八十八ヶ所として創ったものである。仙台石に丘球学老師の筆による弘法大師像と四国

の各霊場の山号・寺号、ご本尊名、ご詠歌などが刻まれている。石碑の設置場所も老師が自ら歩いて、これを決めたという。石碑前の礼拝石の〇印の下に四国霊場の土が埋められているので、これを踏んで巡拝すれば、四国霊場巡拝と同じ功德があるという。

修善寺の裏山を一番として修善寺梅林へ上がり自然公園から神戸

洞、半経寺と下る。折り返して越路橋から桂川を渡り嵐山、鹿山へ上り、温泉場南麓を経て奥の院に至り、折り返して中島橋、日影橋より北又、紙谷、中里、そして温泉場北麓を経て、再び修善寺の裏山に戻る(6里31町(およそ25km)に番外1基と再建1基を加えた90基の大師像が建てられている)。

八十八ヶ所を詳しく案内することは誌面の都合でできないので、毎年11月7日・9日まで、2泊3日をかけて家内安全・無病息災・大願成就を祈念しながら巡拝する桂谷八十八ヶ所めぐりが行われるので、これに参加するのがおすすめ。修善寺の僧侶たちの先導で初日が修



▲ 88ヶ所石碑



▲ 巡拝風景

※修善寺から奥の院までは「いろは道」と呼ばれている。いろは48文字の石碑がたてられています。(詳細は4・5頁参照)



▲ 修善寺

4 修善寺歩道

伊豆山稜線歩道は天城峠から仁科峠、船原峠、戸田峠、だるま山高原レストハウス、修善寺自然公園までの全長42kmのコースを言う。

その内、修善寺歩道と呼ばれるのは戸田峠から富士見コースを經由してだるま山高原レストハウス、更に虹の郷までのコースである。富士見コースは金冠山の頂で紹介してあるもので、ここではだるま山高原レストハウスからのコースを紹介する。

修善寺駅から戸田行きバスで27分、だるま山高原レストハウスで下車。伊豆三絶の一つに数えられている所なのでレストハウスから駿河湾越しの富士山を眺めていこう。(11頁参照)

この地はキャンプ場となっていて、キャンピングが数棟あり、夏にはキャンパーで大変賑わう。

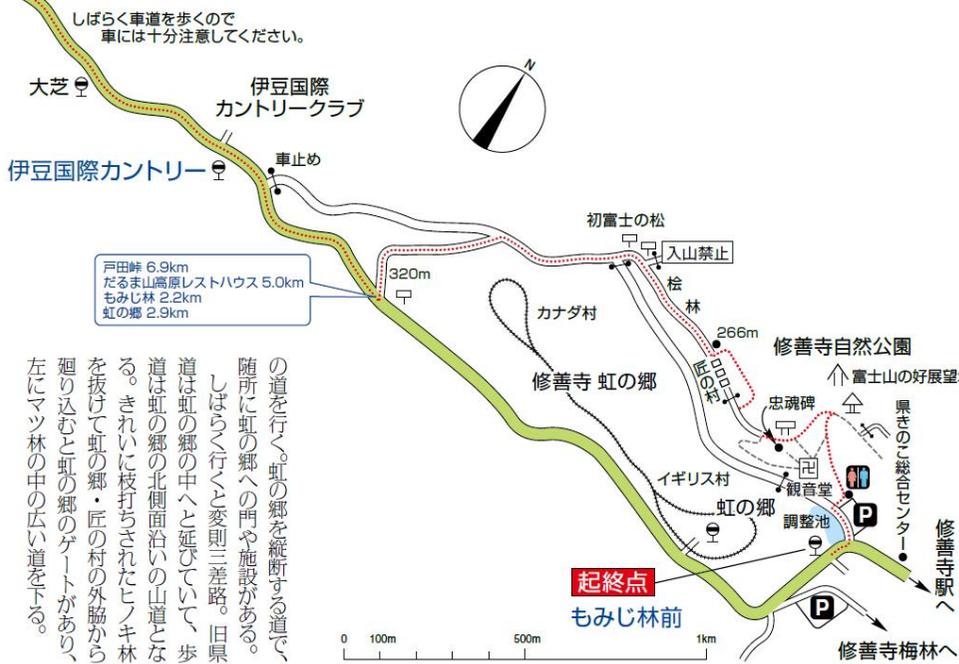
駐車場の左手にある達磨像の手前から樹林帯に入る。一日樹林帯を抜け出るると県道に出て横断し、道沿いに下る。すぐにキャンプ場の入口で広い駐車場となっている。管理棟の前を横切りテントサイトのあるキャンプ場へと下って行く。展望の良い所で、富士山は勿論、駿河湾、天城連山、達磨山が望める。

キャンプ場を抜ける下りが少しきつくなり灌木の中の防火帯の広い尾根道を下る。春先にはワラビが沢山生える所で、わらび狩りを楽しむ家族連れが目立つ。

長い防火帯の尾根道を下り切ると県道の三差路に出る。そのまま横断して斜面を登る。急な道を上がり切ると三等三角点がある。ここをぐっと右に曲がり、樹林帯の中を下る。県道に一旦近づいて雑木林に入ると、抜けると、また県道の三差路に出る。右に下る道は北又から修善寺へ行く道だ。ここでは真っすぐ県道を歩くことになる。県道に歩道がないので伊豆国際カントリークラブの先までのおよそ2kmは車道を歩かねばならない。車には十分気をつけて歩いてほしい。

カントリークラブから旧の県道を左に見て下ると、左に歩道の入口がある。だるま山高原レストハウスから5km、もみじ林まで2.4km、虹の郷まで2.9kmの地点である。灌木の中の広い道を緩やかに下ると旧の県道に合わる。しかし、こ

防火帯から樹林帯を抜けて伊豆最大のもみじ林へ



の道を行く。虹の郷を縦断する道で、随所に虹の郷への門や施設がある。しばらく行くと変則三差路。旧県道は虹の郷の中へと延びていて、歩道は虹の郷の北面沿いの山道となる。きれいに枝打ちされたヒノキ林を抜けて虹の郷・匠の村の外脇から廻り込むと虹の郷のゲートがあり、左にマツ林の中の広い道を下る。

大きな忠魂碑がある広場を右に見て下ると広いマツ林。左手の丘からは富士山が望める。かつてここに天然記念物の富士見のマツがあった所で、その名残の切り株がある。舗装された急坂を下ると修善寺自然公園のもみじ林である。大正13年(1924)、修善寺町制施行記念としてカエデ5種類、およそ2000本が植栽されたもので、モミジ林としては伊豆最大の規模を誇っている。秋には大勢のもみじ狩りの観光客で賑わう。園内には夏目漱石の碑もある。

真っすぐ下れば公園の駐車場だが途中の三差路を右に上がると霞原観音堂があり、33観音が祀られているので寄って行きたい。観音堂の石段を下ると駐車場だ。県道に出れば起終点のもみじ林前のバス停。起終点



▲だるま山高原レストハウスからの富士山



▲三等三角点



▲稜線を歩く



▲自然公園は紅葉の名所



▲修善寺自然公園からの富士山

から虹の郷は県道を右に5分ほど歩いた所にある。また、近くの県道沿いに県きのこ総合センター(入館無料)があり、きのこのあれこれが展示されているので興味ある人は寄っていききたい。山で見つけた解らないきのこの鑑定もしてくれる。

5 金冠山・きよせの森

きんかんざん

伊豆三絶(伊豆を代表する絶景地三ヶ所)の一つに数えられているのが「だるま山高原レストハウスからの富士山」である。ここを世界に知られた日本一の富士山の展望地として有名にしたのは、昭和14年(1939)に行われたニューオー



▲だるま山高原の富士山

ク万国博である。ここから写した富士山の大写真が日本の代表的風景として展示されたのである。縦17尺(約5.5m)、横108尺(約33m)の大写真の全面に墨桜竹を配し、竹林越しに富士山が見られるように展示、大絶賛を博したと伝わる。ここを起点として富士山の好展望地として知られた金冠山へのハイキングコースは子供から中高年まで誰でも歩ける手頃なコースである。

新緑や紅葉の時期も良いが、何より富士山が良く見える秋から冬がいい。また、周辺はマメザクラの名所なので花の咲く4月中旬もおススメだ。コースとしては金冠山からきよせの森を経てだるま山高原レストハウスに戻る周囲コースがよい。

修善寺駅から戸田行きバスで27分、だるま山高原レストハウスで下車。車利用の場合はレストハウスの駐車場(無料)を利用するとよい。県道を少し行くと金冠山への登山口がある。雑木林を登るとすぐに芝生の広場。3〜4月ごろは各種の桜が咲く所だ。金冠山までは広く切られた防火帯の道が緩やかに上っている。富士見コースと呼ばれるように時折、右手の樹林の上に富士山が望める。

道が平坦になると正面に丸い金冠山が見えてくる。辺りはアセビの群生地。3〜4月には垂状の真っ白な花があちこちにたくさん咲いてるのが見られる。マメザクラも多く、4月には辺り一面薄いピンク色で染まる。マメザクラは伊豆地方ではコメザクラともいい、富士山地方ではフシザクラ、箱根地方ではオトメザクラとかハコネザクラとも呼ばれる、直径2センチほどの桜である。防火帯が終わったら管理道(舗装)

を横断し10分足らずで金冠山の山頂に着く。弧を描く駿河湾を全景にした富士山をはじめ愛鷹山、箱根山、遠く南アルプスまで望める。

下りは、パラボランテナの脇を通り北側の裾を回り前の麓に出たら、そのまま舗装道を戸田峠へと下る。峠から左に県道を少し下る右手にきよせの森の入口がある。きよせの森は生活環境保全林で83種、1万8000本余りの樹木が植栽されている。保全林に入るとスギ・ヒノキの林で、道とほぼ平行して小さな沢が下っている渓流コース。一帯はマメザクラの群生地。花を愛でながら歩ける。

森はエンジュの森からツバキの森、木の実の森、野鳥の森、クヌギの森などに分かれているが、歩道同様、はっきりした表示がないので、どこをどう歩くか地図を確認しながら、自分は今、どこを歩いているか確認しながら歩いてほしい。……はモデルコース。

だるま池と野鳥の池が一つのポイント。この二つの池には天然記念物のハコネサンショウウオが生息している。森は植物や野鳥観察、森林浴には絶好の場所である。

クヌギの森の急な歩道を上るとだるま山高原レストハウス前になる。



富士山の絶景地から野鳥・植物・森林浴の森へ



▲マメザクラ



▲富士見コース



▲金冠山の富士山

6 達磨山

だるまやま

天城峠から西に向かって延びた分水嶺は伊豆山稜線歩道である。伊豆山稜線歩道の西の端にあるのが達磨山である。伊豆ではニヶ所ある一等三角点の一つがあり、その展望の良さから十三国峠とも呼ばれている。

十三国とは安房（現在の千葉東南部）・相模（神奈川県）・武蔵（埼玉県）・甲斐（山梨県）・信濃（長野県）・伊豆（静岡県東部）・駿河（静岡県中部）・遠江（静岡県西部）・三河（愛知県東部）・尾張（愛知県西部）・美濃（岐阜県南部）・伊賀（三重県西部）・伊勢（三重県）である。一等三角点の後の二つは万三郎岳（1405.6m）と南伊豆町と松崎町の境にある暗沢山（520.3m）である。

達磨山の名の由来は、静岡県中部の由比・清水方面から見ると、丁度ダルマさんの姿に見えるという。また、滑っても転んでも、すぐに起き上がる山、という説もある。

このコース、戸田峠からだ、終始富士山を背にして歩くことになるので、逆の船原峠から歩いたほうがおすすめです。

修善寺駅から松崎、または長八美術館行きのバスで28分、大曲茶屋で

コースタイム(参考) 所要時間: 約3時間40分

修善寺駅	バス	27分	だるま山高原レストハウス
戸田峠	バス	40分	達磨山
土肥駐車場	船原峠	50分	船原峠
大曲茶屋	バス	40分	大曲茶屋
修善寺駅	バス	28分	修善寺駅



▲達磨山からの富士山

下車、国道をそのまま進んで、旧道に入り、およそ3km先の船原峠へ。西天城高原線の大きな橋の下から橋げた沿いに階段を上る。2体の石仏を見て灌木林を抜け、一旦スカイラインに出て、再び灌木林に入る。各入口には道標がしっかりあるので迷うことはない。その後、しばしスカイライン沿いの歩道を緩やかに上ると広い土肥駐車場に着く。西天城方面の山並みと土肥方面、駿河湾が望める展望地で、北の灌木の間から富士山も望める。

駐車場の端から再びササ原の歩道を上ると、左手のササ原の中に三角点がある。スカイラインに出た所に伽藍山の道標。山頂らしからぬ場所である。本来は三角点の所が伽藍山であろう。

スカイライン沿いに進むと、小土肥駐車場。なぜかここに鉄橋がある。この後もササ原の歩道に入り、枯死木に注意しながら歩いていくと古稀山に出る。富士山が素晴らしい姿を見せる所で、近年、古稀（70才）を迎えたハイカーがよく訪れる山として人気がある。

達磨山は目の前だ。緩やかなササ原を登ると一等三角点のある達磨山山頂だ。達磨山は達磨火山外輪山の

富士山の展望を楽しみながらササ原の稜線を歩く

最高峰で天城山、箱根山、南アルプス、丹沢山地、駿河湾と360度の大展望を誇る頂上である。

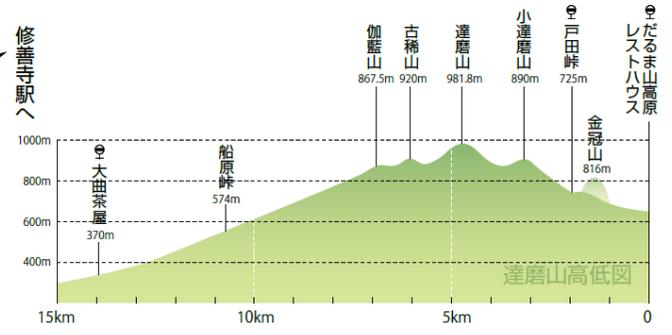
達磨山は天城四兄弟の長男で、別名万太郎（番太郎）とも呼ばれている。後の三人は万二郎・万三郎・長九郎である。

富士山に向かって下る。左手に弧を描いた入江は戸田湾である。一旦、スカイラインに出て、再びササ原を登る。アセビやイヌツゲの木が目立つ。春には達磨山の斜面はアセビの白い花とマメザクラのピンク色で染まる。

小達磨山を越えて下ると戸田峠に出る。ここで修善寺駅行きのバスを待てはよい。バスの便が少ないので事前に調べておくこと。時間と足に余裕があれば、金冠山を往復してもよい（所要時間は30〜40分）し、だるま山高原レストハウスまで歩いて



▲船原峠の石仏



▲沿線から戸田湾を望む



▲達磨山へ向って

7 コビサワラ原生林

中伊豆地区の真ん中を貫いて流れる大見川の支流・地蔵堂川のさらに上流にコビサワラ川があり、近くにほとんど手付かずの原生林がある。天城山の主峰・万三郎岳の北3峰余りの標高700〜750m以上の山中である。コビサワラという、その言葉の意味はどこに聞いても調べても解らない。

ブナ、ケヤキ、モミ、ヒメシャラの巨木にアカガシ、タブノ



▲ハシリドコロ



▲ナベワリ

コースタイム(参考)	
修善寺駅	バス 23分
地蔵堂	20分
萬城の滝キャンプ場	15分
コビサワラ原生林入口	60分
コビサワラ原生林	30分
コビサワラ原生林	25分
コビサワラ原生林	50分

(萬城の滝往復10分)
●所要時間
:約3時間50分(往復)
○(周約30分)



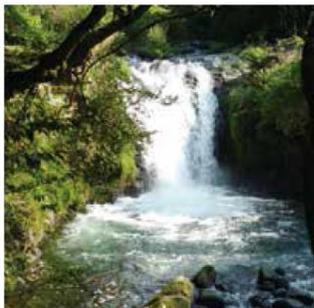
▲原生林の巨木を計る



▲萬城の滝



▲萬城の滝キャンプ場



▲小滝



萬城の滝から天城の原生林へ 三大毒草も見られる知られざる森

夏休みにはキャンプする若者や家族連れで賑わう。無料参加できる自然観察会も毎年行われているので、興味ある人は、キャンプ場へ問い合わせてほしい。

萬城の滝は右の石段を下るとある。高さ20m、幅5mの美しい滝で、滝の裏側から眺められる所から裏見の滝とも呼ばれているが、現在は崩壊のため通行不可。夏休みの期間中はライトアップされ神秘的な雰囲気にも包まれる。

30mほど下流に千年木というケヤキの巨木があって、シダ類やカエデ、ツツジ、スギ、カンフ、ツタウルシなど十数種類の着生植物が見られる。気を付けないといけないのがツタウルシで、かぶれ易い人は触ったり近づいたりしない方がいい。

滝の入口まで戻り林道を行く。すぐの広いバスの転回所から右にヒノキ林に入り、川沿いの遊歩道を上って行く。夏なら涼しい風が気持ちよい道である。

大きな堰堤を見てしばらく上がると水量の多い小滝にぶつかる。小さいながら迫力のある滝である。ヒノキ林を抜けると再び林道に出る。右に道なりに進み、どこまでも続くわさび田を見ながら舗装道路を緩やかに上って行く。

萬城の滝からおよそ1時間でコビ

サワラ原生林の入口。車利用で原生林だけ歩くのであれば、少し先の路上や周辺に駐車できるが、切り出した材木を運搬する大型トラックが時折り通ることがあるため、おすすめはできない。

コビサワラ川を渡りスギ・ヒノキの人工林に入る。木の根元に青いネットが巻かれているが、これはシカに食われたいためのものである。緩やかにシクザクと上る。足元のフキのような葉の植物はイズカニコオモリ、道には黒曜石(火山の噴出石)が見られる。

マツが目立つようになると左下に涸れた沢を見下ろす所に来る。その沢筋に群生する植物が目立つようになる。ハシリドコロである。4月頃にはナスの花に似た暗緑紫色の花が咲き、花が終わると嘘のように何もなくなってしまう。

少し上って濁沢を渡り、スギ・ヒノキの林を抜けると原生林の端に一周して来よう。高低差も少ないので気軽に森林浴や自然観察が楽しめる。トリカブトのほかにもシキミやツルシキミなどの毒草もあるので要注意。木の実・草の実にはやたらと手を出さないように。

帰りはもと来た道に戻る。

8 天城シャクナゲコース

天城山は東西44稜南北24稜で実に伊豆半島の約3分の1を占める天城山系の総称で、天城山という山はない。最高峰は万三郎岳（1406）で、次いで万二郎岳（1299.9）など一連の山々が天城丸木（松・杉・松・樺・檜・梅・楠・桐・榎）などのほかにブナやヒメシヤラ、イヌシデ、アセビ、マメザクラ、カエデ類などが見事な自然林を作りだしている。

天城の名は、山中に甘木（アマギアマチャ）がたくさんあることからついたという。また、麓から見上げると天に響える城のようだ、という説もある。

天城が一番華やかになるのは5月〜6月で、トウゴクミツバツツジ、ドウダンツツジ、アマギシャクナゲが咲く。6月下旬に入ると赤いアマギツツジが山々を染める。

天城山の固有種であるアマギシャクナゲは主に石楠立（はなだて）付近から万三郎岳にかけて多く見られ、5月中旬から6月初旬の見ごろには、たくさんの花見ハイカーで賑わう。

伊東駅から天城高原ゴルフ場行き天城東急リゾートシャトルバスで55分、天城縦走登山口で下車。マイ

◆伊東駅発天城高原ゴルフ場行
— 天城東急リゾートシャトルバス —
《通年》
7:55 10:10 14:10 15:05 16:35

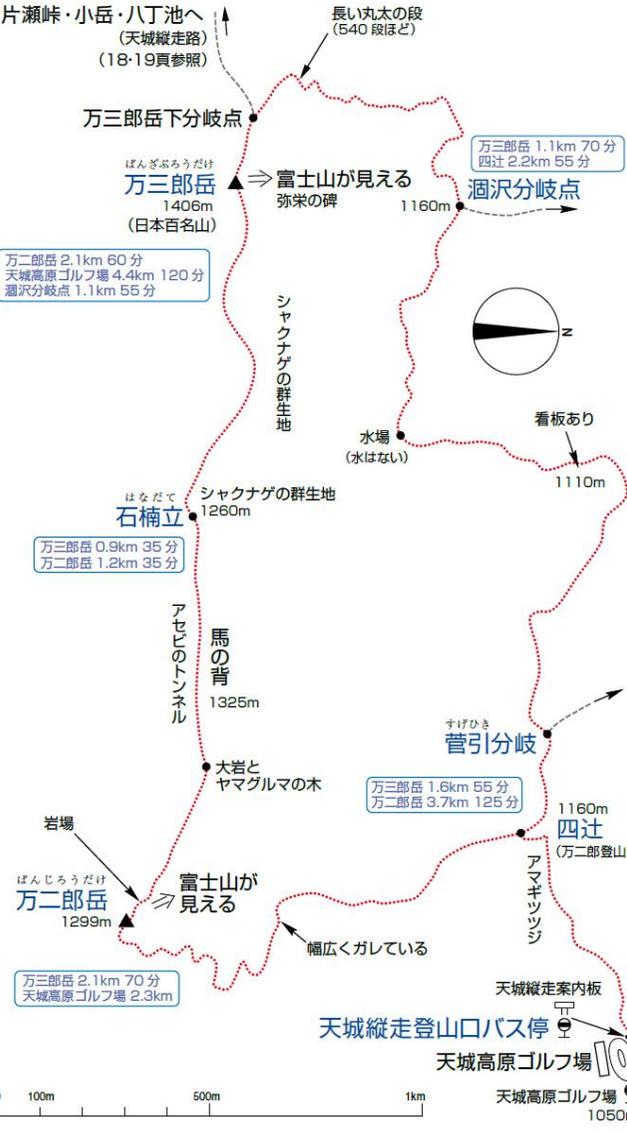
◆天城高原ゴルフ場発伊東駅行
《通年》
8:16 9:00 11:15 15:15 16:10 17:40

◆運賃：1000円
冬季ゴルフ場が休業（クローズ）時は要確認

●バスのお問い合わせは
新東海バス ☎0557-37-5121
H26・7・1改正

コースタイム(参考) 所要時間：約4時間35分

伊東駅 55分 天城縦走登山口
バス 20分 四辻(万二郎登山口)
0.7km 20分
菅引分岐 10分 45分
0.3km 10分 1.9km 55分
潤沢分岐点 55分 70分
1.1km 30分
石楠立 35分 30分
0.9km 30分
1.2km 30分
万二郎岳 55分 45分
1.6km 45分
0.7km 20分
四辻(万二郎登山口) 20分
天城縦走登山口



▲アマギシャクナゲ



▲ブナ林 (万三郎岳下分岐点)

カー利用の場合は、登山口にハイカー専用無料駐車場(普通車88台・大型バス5台可)がある。ただし、シーズン中の土・日・祝日には早くから満車となることがある。

天城縦走路の案内板を見て杉・松の林に入る。木橋を渡り堰堤から階段を上り平坦な道を20分足らずで四辻(万二郎登山口)の三差路。万二郎岳55分の道標がある。シャクナゲコースは、ここから万二郎岳〜万三郎岳下分岐点や四辻(万二郎登山口)と周遊コースなので、どちらから回ってもよいが、ここでは四辻から左に入り万二郎岳へと向かう。

ブナやヒメシヤラが自立し自然林の中を行く。所々に道標があり、また、縦走路標識(青と黄色のプレート)もあるで迷うことはない。

樹林帯を緩やかに登り、かつての台風で大きくガレた沢を渡る。少し急になった道をジグザグと登ると1時間くらいで万二郎岳の山頂に着く。樹木に覆われた何の麥哲も頂上である。万三郎岳へ向かって岩の多い急斜面を下ると展望のよい岩場に出る。東伊豆から南伊豆に伸びた海岸線や三筋山、正面にこれから向かう馬の背、その肩に万三郎岳がのぞいている。晴れていれば北側に

富士山が望める。

ぐんと下って登り返すと馬の背。大きな岩の上、通称「関所」から振り返ると、万二郎岳や遠立山、ゴルフ場が見える。

長いアセビのトンネルを抜けると荒れた急な下り。十分注意して下ろう。下り切ると石楠立。この付近からアマギシャクナゲの群生が始まる。ブナの林に混じってピンク色のシャクナゲが迎えてくれる。

シャクナゲの花を愛でながら登りきると万三郎岳の山頂に出る。樹木に覆われた山頂北側の樹木の切れ目から富士山が望める。

帰りは、かつては山頂から潤沢分岐点に直に下る道があったが、今はシャクナゲの保護のため、迂回路ができています。山頂から片瀬峠に向かって10分ほど行った先に万三郎岳下分岐点がある。この分岐を右に500段余りある長い木段を下る。この付近にもアマギシャクナゲが見られる。道が緩やかになると潤沢分岐点に出る。このまま万三郎岳の裾を巻くように下る。この辺りにもアマギシャクナゲが見られる。

裾を巻くように斜面の緩やかに上り下りを繰り返す。左側が急に落ちた斜面で、冬場は凍結で滑り易く、過去に滑落事故が何度も起きている要注意の所だ。



菅引分岐を過ぎると、前に通った四辻(万二郎登山口)に着く。バス停まではあと20分足らずだ。

天城縦走登山口〜万二郎岳間にはA-1からA-16、万二郎岳〜万三郎岳間にはB-1からB-18、万三郎岳下分岐点〜四辻間にはS-1からS-21までの番号が付けられている。万-の場合、自分の付けられている手段となっている。万-の場合は10番若しくは19番へ。

天城の花の女王 アマギシャクナゲを訪ねる

9 天城縦走



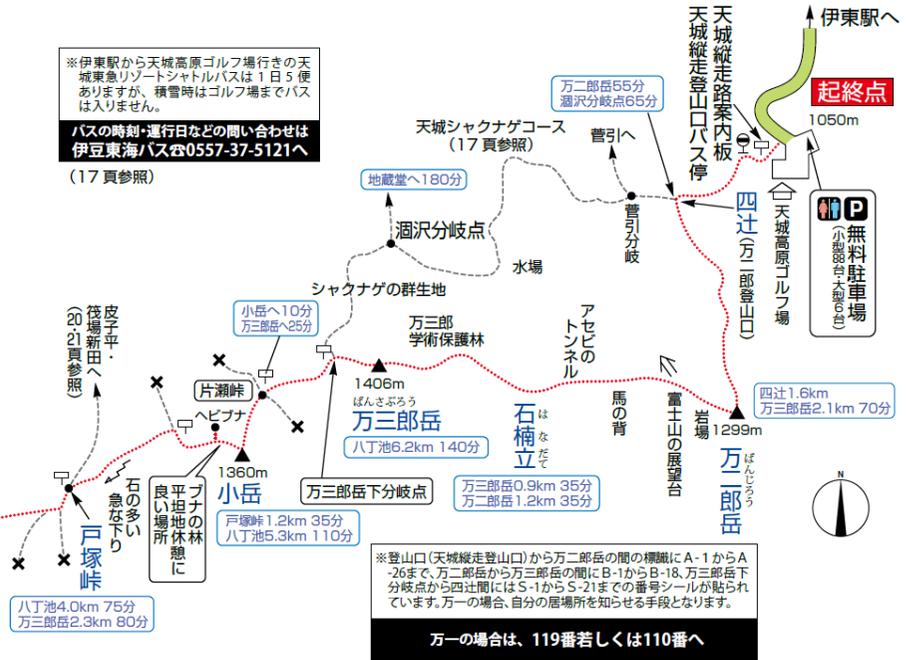
▲黄葉のブナ

コースタイム(参考) 所要時間：約8時間 (逆コース：約8時間30分)

伊東駅	バス	55分	天城縦走登山口	バス	43分	修善寺駅
伊豆海バス	0557-37-5121		天城峠	0.3km	15分	天城峠
天城峠	0.5km	30分	旧天城トンネル	0.5km	30分	天城峠
天城峠	0.5km	35分	向峠	2.7km	50分	天城峠
大見分岐点	2.1km	65分	大見分岐点	2.1km	50分	大見分岐点
八丁池	2.6km	50分	八丁池	2.6km	50分	八丁池
白田峠	1.4km	35分	白田峠	1.4km	35分	白田峠
戸塚峠	1.2km	50分	戸塚峠	1.2km	50分	戸塚峠
小岳	0.3km	15分	小岳	0.3km	15分	小岳
片瀬峠	0.7km	30分	片瀬峠	0.7km	30分	片瀬峠
万二郎岳	0.9km	35分	万二郎岳	0.9km	35分	万二郎岳
石楠立	1.2km	35分	石楠立	1.2km	35分	石楠立
万二郎岳	1.6km	50分	万二郎岳	1.6km	50分	万二郎岳
四辻万二郎岳登山口	0.7km	20分	四辻万二郎岳登山口	0.7km	20分	四辻万二郎岳登山口
天城縦走登山口	0.7km	20分	天城縦走登山口	0.7km	20分	天城縦走登山口
伊東駅	バス	55分	伊東駅	バス	55分	伊東駅



▲万二郎岳山頂



天城縦走コースの起終点は天城縦走登山口と天城峠である。図で解るように、ゴルフ場側からの方がいくらか楽である。交通の便からもゴルフ場から登る人が多い。

伊東駅から天城高原ゴルフ場行き「天城東急リゾートシャトルバス」で55分、天城縦走登山口で下車。バスは積雪時は運行されない。注意が必要。(17頁参照)

伊豆東海バス 0557-37-5121

天城縦走路の案内図から人工林の中に入り、万二郎岳から万二郎岳、万二郎岳下分岐点までのコースは16頁「天城シャクナゲコース」を参照。シャクナゲコースと分かれ、万二郎岳下分岐点の案内図から左に片瀬峠に向かう。道標・案内図はこの先、各峠にも設置されているので自分のいる位置が確認できて安心できる。ブナ林を下り10分くらいで片瀬峠。案内図がある。ブナ林を行くとすぐに小岳。天城山の中でも特にブナの美しい林である。右へ折れて少し下るとヘビブナへの入口。素直に伸びたブナと違いくねくねとヘビの様に曲がっている特異なブナである。戸塚峠に向かうと下りがきつくなり、ブナに混じってヒメシヤラも目立つようになる。足元には石も多々

その上、木の根が張って歩いて歩きにくい下りだ。平坦な道になると戸塚峠。案内図とベンチがあるので一休みして休もう。右に下る道は皮子平へ下るコース。体力と時間が許せば1時間程度で復讐できる。20頁「皮子平」参照。

白田峠までは起伏が少なく歩き易い。ブナやヒメシヤラに混じってアセビが目立つ。白田峠を過ぎるとカエデも多くなり、初夏には目に染みそうな新緑、秋には紅葉するような紅葉が楽しめる。

与市坂への分岐を右に見て緩やかに下り、「下り八丁池歩道」の入口を見とすぐに八丁池に飛び出す。八丁池の詳細は34頁「八丁池」または「野鳥の森・八丁池」を参照。トイレから展望台を往復したら少し下って佐賀野入歩道・「上り御幸歩道」に入り天城峠へ向かう。34頁「八丁池」の逆コースを行くことになる。天城峠のバス停まで2時間かかる。万二郎岳の場合、大見分岐点から水生地歩道を利用すると時間短縮ができる。

このコースは全長約17km、所要時間約8時間の健脚向きコース。天城峠からのバスの終便も早いので、心して歩かなくてはならない。

12 天城遊歩道

天城山に降った雨は本谷川を流れ、猫越川と湯ヶ島温泉で合流して狩野川となる。天城遊歩道はその少し上流、本谷川にかかる瑞祥橋を起点として、上流の伊豆の名景・浄蓮の滝までのおよそ3.5kmの自然遊歩道である。

修善寺駅から昭和の森美術館行き、河津駅行き、湯ヶ島温泉行きのバスで20分、湯ヶ島温泉口で下車。二張酷眼雲閣落合の前を通り国道から右に少し急な坂を下り瑞祥橋を渡った所がこのコースの起点である。真っすぐ行く「湯ヶ島温泉・世古峠方面」。

案内板を見て舗装道の緩い坂を上る。左下に風情あるつり橋(向山橋)があるので、ちょっと寄り道してい



▲水恋鳥広場近くのダム



▲五所平之助の句碑

こう。ここも「湯道」(22頁参照)のコースの一部となっている。真っすぐ緩やかに上って大滝梅園への分岐を左に行く。元民宿まきのこ荘の前を通ると舗装道の終点。左に細い道を下れば本谷川の河原に出る。前方に大きなダムが見える。ダムの鉄階段を上って降り、木の小さな橋を渡ると水恋鳥広場。親水公園となっていて、夏には水遊びをを楽しむ家族連れで賑わう所である。広場の一角に与謝野晶子の歌碑がある。昭和10年船原温泉に滞在し多くの歌を残した内の一首。

岩尾ダムの大きな壁にぶつかり左にダムを越えて川沿いに上る。丸太木橋の橋を渡り渾木の繁る山道を上ると国道に出る。バス停「天城山荘」の所である。横断歩道を渡り石段を上ると石仏のある広場。シカの角のような形をした白い碑がある。映画「伊豆の踊子」の第一回監督であった五所平之助の句碑である。

「踊子といへば朱の櫛 あまぎ秋」の句が刻まれていて、裏には歴代伊豆の踊子」に主演した女優の名前が連記されている。

浄蓮の滝には女郎蜘蛛の民話がある。滝の近くで野良仕事をしていたおじいさんが、一服してしていると、どこからか一匹のクモが現れ、足にクモの糸をかけているのを見つけた。何をしているのか、特に気にしていなかったが、しばらくしてふと見るとまたまた現れては何度も糸をかけていた。そろそろ仕事にかかるか、とクモの糸を近くの大木にひっかけて野良仕事を続けていると、滝の方からバリバリドーンという音がした。近づいてみると何となく大きな木が滝に引き込まれていた。おじいさんはびびり、野良仕事もそこでここに帰ったという。

常設のマス釣り場があり、下流には緑のワサビ田が広がっている。急な石段を戻って天城遊歩道は終点となる。ここは「踊子歩道」の起点である。(33頁参照)

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	10分	20分	15分	5分	5分	バス	29分
	浄蓮の滝	→	天城山荘	→	瑞祥橋	→	湯ヶ島温泉口	
	35分	10分	15分	15分	5分	5分		
		往復15分						

所要時間：約1時間5分



▲浄蓮の滝



▲伊豆の踊子像

狩野川の上流・本谷川沿いに延びた自然探索遊歩道

料があるので興味ある人は寄ってみるとよい。

うっそうとした樹林を下ると柱状節理の岩にかかる高さ27m、幅7mの浄蓮の滝。石川さゆりが歌った演歌「天城越え」の歌碑もある。滝の岩肌に残っているのは天然記念物のハイトモチシダ(ジョウレンシダとも言う)で、分布の最北端といわれている。

浄蓮の滝には女郎蜘蛛の民話がある。滝の近くで野良仕事をしていたおじいさんが、一服してしていると、どこからか一匹のクモが現れ、足にクモの糸をかけているのを見つけた。何をしているのか、特に気にしていなかったが、しばらくしてふと見るとまたまた現れては何度も糸をかけていた。そろそろ仕事にかかるか、とクモの糸を近くの大木にひっかけて野良仕事を続けていると、滝の方からバリバリドーンという音がした。近づいてみると何となく大きな木が滝に引き込まれていた。おじいさんはびびり、野良仕事もそこでここに帰ったという。

常設のマス釣り場があり、下流には緑のワサビ田が広がっている。急な石段を戻って天城遊歩道は終点となる。ここは「踊子歩道」の起点である。(33頁参照)

14 狩野城跡

かの

狩野城跡は伊豆半島の中心部、伊豆市のほぼ中央に位置し、国道136号線、清流狩野川と柿木川との合流点に隣接する標高189mの高低い丘にある。狩野城は平安後期(1100年頃)より室町時代後期の15世紀末までの約300年間に亘り伊豆の豪族・狩野氏の居城で、今なお明瞭に遺構を残す中世の山城である。東側は狩野川の断崖に、北側は柿木川、南側は北沢川とそれぞれ侵食された急斜面をもち、三方を遮断された天然の要害である。展望も良く、田方平野から箱根連山、天城連山が望め、下田街道を監視することもできた伊豆の南北を結ぶ要衝であった。城跡は標高189mの「中郭」を中心として北東方面に「東郭」と「出丸」、南方に「南郭」、西方に「本郭」と「西郭」を擁し、それらは大空堀や二重堀、堅堀などで仕切られ、その周辺には無数の土塁や堀切りなどがめぐるされている。

足利幕府、織田、豊臣、徳川幕府と数百年にわたり、御用絵師として活躍した狩野派は、この狩野一族から生まれている。
平成13年から16年にかけて、この周辺の森約16ヘクタールを狩野城跡生活環境保全林として、遊歩道や花

木を植栽して整備してきた。併せて災害防止のため数箇所に合止工が造られている。
城跡の遊歩道を利用して歩けば、歴史の息吹と四季折々の自然が楽しめる。
修善寺駅から湯ヶ島温泉行き、昭和の森会館行き、河津駅行きのバスで15分、柿木橋で下車する。車利用の場合は柿木橋を渡って右へ500m行った所の本柿木農村公園に駐車できる。ここに狩野城跡の説明板がある。「この狩野城跡は、平安末期(1100年頃)、狩野氏によって築かれた城の跡である。標高190mの城域には、鎌倉時代に発達した

二重堀を備え本郭・西郭・南郭・中郭・東郭・出丸に区分される。中世山城の遺構が、築城千年近くも保存されている重要な史跡である。
狩野氏は祖・狩野維景(これか)が駿河の守を返任し、初め、市内日向に館を構えたが、その子・狩野維職(これも)が伊豆押領使を務めるなど、軍事上の必要もあり要害の地を選んで、この地に移った。最初の城主は二代維職が三代維次(これか)と思われ。
維景から五代の孫・茂光(もちみつ)は、その子・親光(ちかみつ)と共に源頼朝に従い、治承四年(1180)石橋山の合戦で敗北自刃したが、子孫は鎌倉・室町両幕府に伊豆を代表する武将として仕えた。



▲狩野川畔から見た狩野城跡

伊豆の豪族狩野氏300年間勢力を奮った山城 狩野一族から御用絵師として狩野派が誕生

丸太の段を上る。急な丸太の段から振り返ると国道136号線と狩野川が一望できる。上り切ってテーダ松の林を抜けると城山下の分岐。左にシゲザクと上ると森林学習空間の森。南側から上がってきた道と合流して右に上がると出丸跡。この辺りうっそうとした森の中である。
丸太の段を下って上り返し右に東郭を見送ると、すぐに左に丸太の段がある。上れば武将の霊を祀ったという題目堂。
前方に見える中郭が、この城跡の最高点である。周辺は芝生広場となっているのでお弁当を広げるには最適な場所である。戻って本郭跡から樹林帯を歩けばクヌギ林の四つ角にぶつかる。右へ行けばヤマボウシが植栽された広場で、眼下に田園風景が広がっている。雑木林を下れば桜ヶ洞の堰堤を越えて本柿木農村公園に出る。休憩舎で一休みしたら裾を巻く山道を迎えて城山下の分岐を過ぎ、そのまま真っすぐ行けば、前を通った道を柿木橋へ下る。随所に道標があり、ぐるりと一周しても1時間かあれば十分回って来られる。
農村公園から山道を600mほど行くと法泉寺の天然記念物のしだれ桜がある。3月下旬には桜まつりも催され、多くの花見客が訪れる。

明応二年(1492)からの北条早雲の伊豆侵攻の折、城主狩野道一(ごういつ)は足利方に付き戦い、明応七年に敗れて開城した。その後、一族は小田原に移り、後北条氏の重臣として要職を歴任している。
室町時代中頃から絵師として栄えた、狩野派の初代狩野正信(まさのぶ)は、維景から十六代の孫である。
伊豆市教育委員会
柿木橋のたもとに狩野派発祥の地を知らせる大きな看板がある。橋を渡った右手に案内図があり、石段か

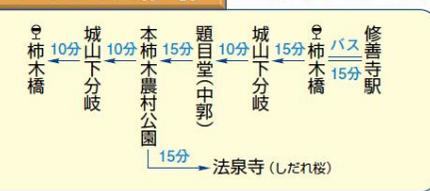


▲題目堂



▲中郭の広場

コースタイム(参考) 所要時間: 約1時間



▲森の中の遊歩道



15 太郎杉歩道

太郎杉は天城一のスギで、幹回り97.3cm、高さ53m、樹齢450年の巨木である。静岡県のスギの巨木ランキングでも1位の河内の大杉(沼津市西浦市民の森)に次ぐ巨木で県の天然記念物に指定されている。

森の巨人たち・巨木100選(巨樹・巨木を考える会・講談社)にも選ばれている。

修善寺駅から昭和の森会館行き、または河津駅行きのバスで38分、昭和の森会館で下車。時間がない時は滑沢渓谷までバス(河津駅行きのバスで39分)で行ってもよい。

昭和の森会館は道の駅・天城越えとなっていて、会館のほかに伊豆半島ジオパーク 天城ビジターセンター、レストラン、天城わさびの里(直売所)、竹の子かあさんの店、井上靖旧邸・グリーンガーデン(シヤクナゲの森 など)がある。会館の中には森の情報館(無料)と伊豆近代文学博物館(有料)がある。道の駅の前に見学したいききたい。道の駅前にはグリーンガーデン(入園無料)には、3月にはエドヒガンザクラの巨木が薄ピンク色の花をつける。また、5月には500種・1万3000本のシヤクナゲが次々と咲く。このほか季節の草花が沢山

植栽されているので、花好きには見逃せない所である。園内の遊歩道の展望所からは富士山も望める。

カエデが植栽された会館の庭先を突っ切り、秋の紅葉のシーズンには紅葉狩りの観光客で賑わう所だ。

中ほどに御礼杉の説明板がある。目の前のグリーンガーデン内にある御礼杉のごとで、次のように書かれている。『天城山を徳川幕府が所有していた頃、「天城七木制」と言われる禁伐制度がありました。山付きの部落に雑木や下草を利用させた際、その開けた跡地に杉を植えるという森林保護を目的とした政策造林を行っていました。しかし、幕府の強制的な造林だったこともあり、不満を抱える村民の心情を和らげようと幕府は、森林に対する感謝の意を示す御礼の杉である(御礼杉)と伝えたと当時の村名主が記録を残しています。』

天城山にはこうした御礼杉がおおよそ1500本あり、県道の向側にある数本の杉大木もその一部です。古いものは樹齢200年以上を数えるものもあります。山神社を右に見て、樹林帯を行くと天城旧街道の説明板。小さな沢を渡って石段を上がると

一枚岩の美しい渓谷を巡り 天城一のスギの巨木・太郎杉へ

カエデが沢山植栽されている広場に出る。その端にある踊子歩道の案内図を見、右下に本谷川を横断越しに見ながら行くと滑沢渓谷の説明板がある。橋を渡ると正面に井上靖の「猟銃」の文学碑。

道は左右に分かれていたので右へ行く。左の道は行き止まりだが、少し入った所は紅葉の名所なので、季節にはちょっと寄り道してもいい。わさび田のすぐ先に滑沢川にかかる滑沢橋。上流を見ると一枚岩の上を滑るように流れる沢が見て取れる。下流を見ると流れによってできたポットホールがいくつも見られる。ポットホールとは岩の窪みに石が流れ込むと、水流で窪みの中で石が回転し、お互いに削れて、窪みが深くなり、石は丸くなる。これでできた穴を言う。ポットホール内に



▲滑沢渓谷の紅葉

あった玉石は激しい水流によって飛び出してしまっていないが、伊東市城ヶ崎のかんのん浜には巨大なポットホールがあり、直径70cmの玉石が残っている。

滑沢川の下流で右手から流れ込む本谷川と合流した所に電姿の滝がある。電姿の滝は林道から歩道があるで行ってみよう。透き通った水に手を入れると切れるように冷たい。上流にわさび田があり、人の手やシカ、イノシシなどの動物が入っている。水は飲まない方がよい。歩道は滑沢川の両岸につけられているので、どちらを行っても途中で合流する。一旦林道に出て、しばらく行って再び川沿いの道を行き、また林道に出たら、そのまま林道を歩く。大瀬沢橋を渡ってなかも進むと太郎杉の上り口に着く。説明板の横にかつて鼻集した俳句が刻まれた石碑がある。

右奥を見上げると太郎杉の巨大なスギが目にとびこんでくる。下から見るとさきと大きく見えないが、そばに近寄ってみると、その大きさに圧倒される。保護のため樹の根元まで行かないように柵がしてあるので入らないように。

帰りは元来た林道を通って滑沢渓谷のバス停、または昭和の森会館へ戻る。

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	39分	滑沢渓谷	バス	38分	昭和の森会館
修善寺駅	バス	35分	滑沢橋	バス	15分	太郎杉
修善寺駅	バス	30分	太郎杉	バス	30分	滑沢橋
修善寺駅	バス	30分	滑沢橋	バス	15分	太郎杉

●所要時間：約1時間15分



▲御礼杉



▲太郎杉



▲滑沢渓谷



▲電姿の滝

16 踊子歩道

踊子の面影を追って 名作の詩情あふれる旧天城街道へ

川端康成の名作「伊豆の踊子」の書き出しは天城峠であるが「踊子歩道」の起点は浄蓮の滝である。できれば二つ手前のバス停「天城山荘」で下車して、第一回「伊豆の踊子」の映画監督である五所平之助の句碑を見ていきたい。詳細は24頁「天城遊歩道」の項を参照。

浄蓮の滝までの交通は修善寺駅から昭和の森会館・河津駅行きのバスで35分。浄蓮の滝で下車したら日本名産100選に選ばれた浄蓮の滝を見てごよう。入口に「伊豆の踊子像」がある。

踊子茶屋の前から旧天城街道（下田街道）に入る。穂積忠の歌碑見てさらに進むと島崎藤村の文学碑。国道に入る手前のスギ林を左に行くと横光利一の文学碑がある。

スギ林を抜けた所に今上天皇が皇太子時代に、天城を訪れた時のお手植えの杉がある。渾木の中の水路沿いに行き丸太の段を国道に降りる。国道を横断してスギ林を抜



▲伊豆の踊子像

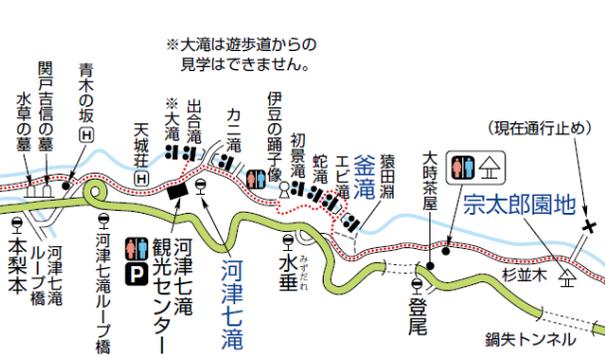
けると道の駅「天城越え」・昭和の森会館に入る。森林博物館（無料）と伊豆近代文学博物館（有料）を見学してごよう。国道の反対側にはシヤクナゲの森があるグリーンガーデンがある。

駐車場の端からカエデや林・杉・檜の林を抜けたら広場に出る。滑沢渓谷への林道に入り、川沿いに進めばわさび田がある。橋の向こうに井上靖の文学碑が見える。

コースは橋の手前から丸太の段を上がる。本谷第3砂防ダムを見てしば



▲旧天城トンネル



コースタイム(参考) 所要時間: 約6時間25分

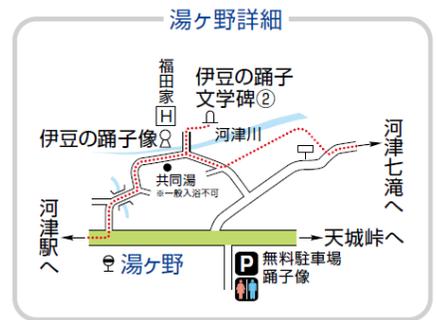
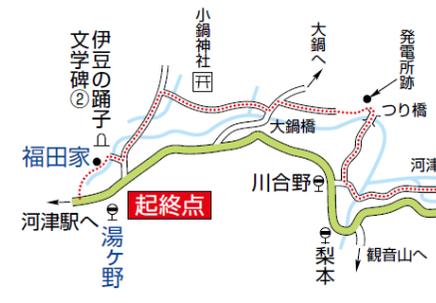
修善寺駅	バス	35分	浄蓮の滝	バス	35分
天城遊々の森	昭和の森会館	50分	天城遊々の森	天城遊々の森	40分
宗太郎園地	宗太郎園地	55分	宗太郎園地	宗太郎園地	45分
湯ヶ野	湯ヶ野	5分	湯ヶ野	湯ヶ野	5分
河津駅	河津駅	14分	河津駅	河津駅	14分

「伊豆の踊子文学碑」を見て白橋を渡ると水生地。つづら折りの道を行くと旧天城トンネルだ。トンネルに入るとヒンヤリと冷たい。踊子が歩いた当時は真っ暗であったが、今はしゃれた明かりがあるので歩きやすい。トンネルを抜けたらつづら折りの下り道。寒天橋を過ぎると二階滝。新緑の中に白い滝が落ちてくる様子は、心洗われる思いがする。さらに旧街道をしばらく行くと石へ降りる細い道の分岐。これを下り国道を横断して杉・檜の林に入る。河津川にかかるトラス橋手前から左に行く。平滑の滝があるのを見てごよう。

トラス橋を渡ってしばらく下ると林道に出る。左に林道を下れば宗太郎園地。ここからしばらく美しい杉並木が続く。

猿田淵から降りるルートへの入口を見送ると河津七滝の釜滝へ下る道がある。260段の急な階段を下ると釜滝。歩道に従ってエビ滝・蛇滝を見て初見滝へ。ここには「踊子と私」の像があり、絶好の記念写真のポイントだ。

舗装された道をカニ滝・出合滝と見学し、戻ってループ橋の下を



踊子歩道は平成27年に新日本歩道道紀行『文化の道100選』にも選ばれている。

踊子歩道は随所に道標もありコースもしっかりしているので安心して歩けるハイキングコースであるがコースがおおよそ18.5kmと長いので湯ヶ島温泉か七滝温泉、湯ヶ野温泉に1〜2泊して森林浴と温泉浴を楽しんで歩いてほしい。

17 八丁池

はっちょういけ

「天城の瞳」の愛称で呼ばれる八丁池は標高1773mにある天城火山の火口湖と言われているが、最近の調査で断層のズレによってできた池であることがわかった。周囲がスタケに覆われていたことから別名「青ススの池」とも呼ばれ、天然記念物のモリアオガエルの産卵地としても知られている。

八丁池の名は周囲が八丁（約870m）あることからついたと言われるが、実際は580mほどである。

八丁池へのルートは、沢山山があるが、古くから親しまれている一般的なコース「上り御幸歩道」を紹介。

修善寺駅から河津駅行きのバスで43分、天城峠下車。新天城トンネルに向かって左側の山道を上る。ダムを越えて急な階段を15分足らずで旧天城トンネルに出る。今度はトンネルの右側から急な山道をジグザクと上ると25分で大きなブナの木がある天城峠の分岐。右に行けば二本杉峠（旧の天城峠）を経て猫越岳・仁科峠方面の伊豆山稜線歩道。八丁池へは左に行く。杉や松の人工林、ブナやヒメシャラの自然林がおり混じった樹林帯は、新緑の頃、紅葉の頃に訪れると、天城の自然を満喫できる。



▲天城の紅葉

コースタイム(参考) 所要時間/約4時間30分



▲新緑の八丁池 (展望台より)

昔から「はっちょういけ」として長い木の階段を上って下ると30分ほどで向峠。この後はほぼ平坦な道を快調に歩ける。よく見れば樹の間から富士山も望めることがある。大見分岐点からは、道が狭くなって石が多く歩きにくい所がある。相変わりの樹林帯を上ると野鳥の森コマドリ歩道の分岐。真直ブナやヒメシャラの樹林帯をさらに上り、アセビが多く見られるようになると寒天林道（八丁池遊歩道）に出る。左に少しでトイレのある分岐。トイレの分岐を左に1分で見晴台がある。見晴台が上がるとブナの林に囲まれた八丁池が望める。晴れていればブナの林の上に富士山の頭が望める。



▲昭和天皇行幸記念碑

帰りは「下り御幸歩道」を経て水生地へ降りる。アセビのトンネルからブナやヒメシャラの森を抜ける。本谷歩道との分岐。そのまま下ればすぐに白砂林道に出る。平成23年春に新コースとして八丁池から「下り八丁池歩道」ができたので、このコースを走ってもよい。八丁池から天城縦走路に入ってすぐに「下り八丁池歩道」の入口がある。斜面を少し上れば、後は樹林帯の下り一方となる。ブナの巨木も見られる森で、秋には紅葉も楽しめるコースである。間違いやすい所もある。誘導ロープ等はずさず歩きたい。そしてこの道は「下り八丁池歩道分岐」の本谷歩道・下り御幸歩道側で合流する。



▲八丁池畔

旧天城トンネルから樹林帯を散策 森林浴を楽しみながら天城の瞳を尋ねる

白砂林道を横断し、杉・松の林を下り、本谷林道に出たら、そのまま林道を下れば旧下田街道の水生地に出る。白橋を渡り伊豆の奥入瀬と呼ばれる本谷川の清流を見ながら旧下田街道を15分も下ると水生地下のバス停に出る。



▲大ブナ (下り八丁池歩道)

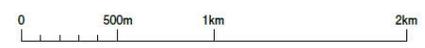
19 三筋山遊歩道

みすじやま

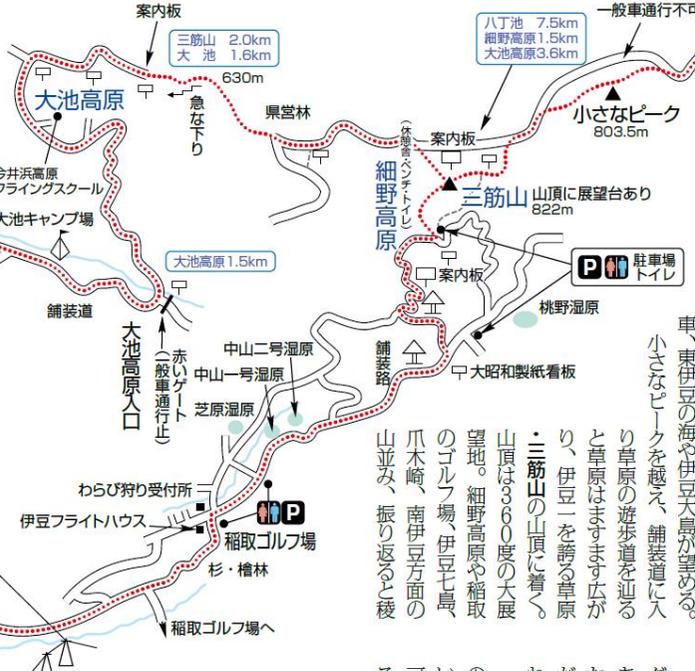
コースタイム(参考) 所要時間/約5時間55分

今井浜海岸駅	10分	見高弁天町	50分	見高入谷	70分	大池高原	60分	三筋山	45分	展望所	30分	上佐ヶ野林道	35分	ピーク(1127.7m)	25分	岐	20分	バス	30分	修善寺駅
	10分		60分		80分		70分		40分		35分		40分		20分		73分			

伊豆稲取駅 120分 中山湿原 30分



▲桃野湿原から三筋山を望む



▲細野高原から天城山を望む

修善寺駅から八丁池口行きのバスで1時間13分、終点で下車。八丁池口行きのバスは季節運行のため注意のこと(37頁参照)。
八丁池口でバスを降りたらスギ・ヒノキ林の舗装された寒天林道を上って行く。左に大きくカーブした所を右に折れて、道なりに進むと分岐。案内図と道標がある。ここを左戻るように上って行く。開けた所から灌木林に入り、アセビの林を抜ける



と右側が開けた明るい道となり、三筋山方面が望める。フナやヒメシヤラの樹林帯を上り切るとフナやヒメシヤラの巨木があるピークだ。
ここからはフナやカエデが繁る樹林帯の下り。ヒメシヤラの林を見て、ヒノキの林を下ると上佐ヶ野林道に出る。林道の広場に出ると風力発電機の巨大な風車が目に飛び込んでくる。



▲ヒメシヤラの林

ここからは風力発電所エリア建設に伴い造られた舗装道路(一般車通行不可)をしばらく歩き、以前からの遊歩道に戻る。これを三筋山まで三度繰り返すことになる。
途中の展望所では三筋山へと広がる起伏のある草原と稜線に連なる風車、東伊豆の海や伊豆大島が望める。小さなピークを越え、舗装道に入り草原の遊歩道を迎えると草原はますます広がり、伊豆一を誇る草原・三筋山の山頂に着く。山頂は360度の大展望地。細野高原や稲取のゴルフ場、伊豆七島、爪木崎、南伊豆方面の山並み、振り返ると稜

天城のフナ・ヒメシヤラの森林から風車と360度の大展望地・草原の三筋山へ

わらび狩りの受付所とパラグライダーの基地・伊豆フライトハウスがある分岐から左に曲がり、舗装された林道を下る。山神社の先、庚申塔がある分岐から左に駅への近道を下れば駅は近い。
このコース、駅までの距離が長いので、陽の短い冬場は避けた方がよい。途中からタクシーを呼ぶことも可能だが、どこまで迎えに来てくれるかは相談。

線に連なる風車と天城連山が手に取るように望める。
下山コースは二つある。一つは細野高原から二つの湿原を見て伊豆稲取駅に下るおよそ2時間30分のコースと、もう一つは大池高原から見高入谷を経て見高弁天町へ下り今井浜海岸駅へ出るおよそ3時間のコース。
ここでは伊豆稲取駅へ下るコースを紹介。
海へ向かって草原をしばらく下り、パラグライダーの発進台を見てなおも下ると駐車場の有る広場。ここまで車で上って来れる。海へ向かって少し狭い舗装道を下る。休憩舎の先の分岐を左に下り、左からの道と合流して、そのまま右に下る。
中山二号湿原、一号湿原では珍しい湿原植物が見られるので寄っていただく。

21 伊豆山稜線歩道(2) 風早峠〜船原峠

さんりょうせん

前項の伊豆山稜線歩道(1)の終点を風早峠としたが、ここに宿泊施設はないので、持越温泉まで下らなければならぬ。距離にして10・8kmもあるのだから歩くのはちょっときつい。宿の車がタクシーを頼まなくてはならない。風早峠から船原峠を歩く場合も逆に持越温泉、または宿泊先から宿の車がタクシーを利用しなくてはならない。

伊豆山稜線歩道は西天城高原線の道路とほぼ平行しているため、自然保護や動物にやさしい処置がされている。その一つがカルバートである。カルバートとは、この通りに生



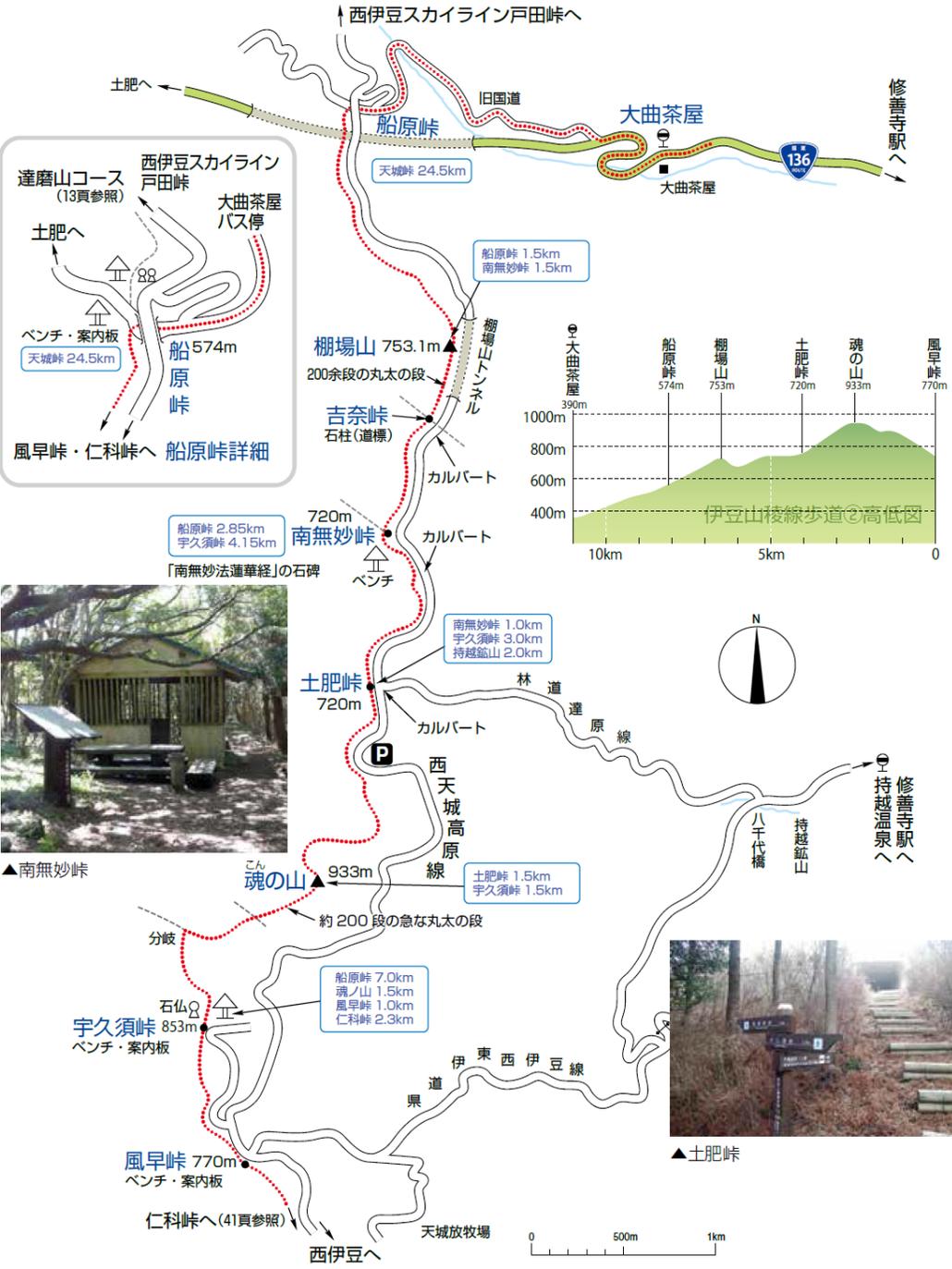
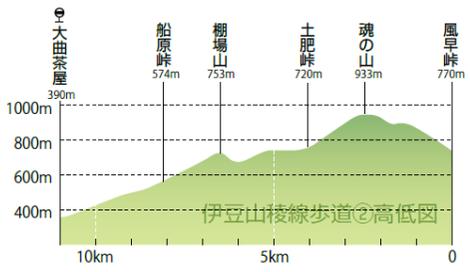
▲風早峠

息しているニホンジカやニホンイノシシ、ノウサギ、タヌキなどの生活圏を道路が分断してしまうことがないように、けもの道のあった所に動物移動用のトンネルを道路下に設置したものである。これにより、動物の生活圏の確保と交通事故を防ぐことが出来る。カルバートは縦横4層のボックスカルバート(3ヶ所)と直径2.5mのパイプカルバート(6ヶ所)の2種類がある。

船原峠まで8km。随所に道標が設置されているので、安心して歩けるが、階段の上り下りが多く、足腰の弱い人は避けたほうがよい。特に膝や腰に故障のある人にはおすすめできない。

また、海岸に近い稜線なので季節風が強く、晩秋から早春にかけては防寒衣類と風除けの衣類も必要。2〜3月には雪の降ることがある。おすすめてはマメザクラやアセビの咲く4月、新緑の5〜6月、紅葉シーズンの11月。

風早峠から道路に平行した尾根道を行く。途中から林道となり宇久須峠へ。休憩舎と案内板、石仏がある。ここからしばらくササ原の草原が続く木の段の上り。振り返ると、猫越岳や後藤山の山並み、天城放牧場の



▲南無妙峠



▲土肥峠

建物が見える。しばらく上って三差路から右に下ると、ササ原の草原と別れ小さな十字路を過ぎると樹林帯に入る。200段近い木の段を上り、アセビのトンネルに入ると魂の山。案内板の標高909.3mは933mの誤り。魂の山からは下り。木の段の途中から富士山をはじめ、これから向かう達磨山方面が望める。右下に道路が近づいてくると土肥峠の分岐。右上に木の段を上がるとボックスカルバートがある。カルバートの先は林道達磨原線が持越鉱山から持越温泉への道である。案内では持越温泉まで3・8kmとあるが、実際は4・5kmある。

稜線の各峠は、かつて湯ヶ島と西伊豆とを結ぶ生活道路であったため、その名残の道や道標などが残されている。

土肥峠からはしばらく道路に平行した歩道が続く。木の段が多く、上ったり下ったりの繰り返しが多い。

南無妙峠には休憩舎とベンチ、「南無妙法蓮華經」と彫られた石碑がある。かつてここで行き倒れた夫婦の供養のために村人によって建てられたものという。

吉奈峠には古い石柱の道標がある。約200段のきつい木の段を上ると船原峠まで1・5kmの棚場山の

所要時間：約3時間45分(風早峠〜大曲茶屋)

修善寺駅	バス	50分	大曲茶屋	船	15分	棚場山	吉奈峠	南無妙峠	土肥峠	魂の山	宇久須峠	風早峠	持越温泉	修善寺駅
28分		3.1km	1.5km	0.4km	1.1km	1.0km	1.5km	1.5km	1.0km	1.5km	1.0km	10.8km	46分	
		55分	35分	10分	20分	20分	35分	25分	20分	25分	20分			

4.5km 70分 持越温泉

山頂。木の段を下ると船原峠までは緩い下り坂。旧国道136号線に出ると休憩舎と案内板がある。反対側に山稜線歩道の達磨山方面の上り口がある。ここにはバス停がないので大曲茶屋までおやすみ3km歩かなくてはならない。

22 西伊豆歩道(通り崎コース)

西伊豆歩道は伊豆西海岸の大瀬崎(沼津市)から西伊豆町堂ヶ島までの海岸線に作られた八つの長いコースである。伊豆市内を通るコースの一つ目は通り崎コースである。起点は土肥港であるが、土肥から港までを追加して通り崎コースとして紹介した。

修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで51分、土肥温泉で下車。

車利用の場合は、松原公園の市営駐車場に停めて、終点の八木沢からバスで戻ることになる。バスの便はあまりよくないので、事前に調べて



▲世界一の花時計

おいた方が良いでしょう。
●(問)新東海バス修善寺事業所
☎0558・72・1841
バスを降りた所に世界一の花時計と温泉ヤグラ、足湯・手湯の施設がある。

花時計はキネスブックに載った時計で直径31cm、分針の長さは12.5cm、秒針は10.8cmで、周囲は四季の花で彩られている。さらに時計の外側には健康歩道が設置されていて、この歩道の上を歩くことにより、足裏のツボを刺激し、血行促進の効果、運動生理効果、ストレス解消などに効果があるという。



▲松原公園(若山牧水像)

と、地元作家による沢山の彫像と若すぐ隣が松原公園でマツ林に入ると、地元作家による沢山の彫像と若

文政の古道を道しるべに導かれて鄙びた八木沢へ

山牧水の歌碑、島木赤彦の歌碑、大場美夜子の句碑、井沢満の青春の碑などがあり、近くの松原大橋の歩道橋には若山牧水の像もある。大正7年に初めて土肥温泉を訪れた彼は、土肥温泉をこよなく愛し、何度も訪れて、沢山の歌を残している。

温泉ヤグラの所には花登壇の歌碑もある。

マツ林を抜け海岸遊歩道を土肥港へ。火振川のバス停の先に西伊豆歩道通り崎コースの案内板がある。左の山道へ入ると、簡易舗装された急な坂を右に大きくカーブしながら上っている。右下に国道、左にみかん畑を見ながら渚木の中を行くとやがて平坦で歩きやすい道になる。枝道もあるが真っすぐ進む。右手、海側の木立の間から富士山が望める。

元臨海学校のフェンスから左に曲がり、急な丸太の段を上り切ると小さな切通しの峠。ここに道しるべの石碑がある。
峠からは丸太の段の下り、女竹や渚木から竹藪になり、港から30分で富士見園地。休憩舎と文政の道標(道しるべ)とその説明板がある。
それによると、この道は、現在の海岸線を守る国道が出来た前は、この山道が唯一の交通の要所であった。古く江戸時代には旅人が道に迷い、

しばしば追いはきに遭い困っているのを知った地元八木沢集落の長者が、私財を投じて、この石道標を建てたと言う。それ以来、道に迷う旅人もなくなり、追いはきも出沒しなくなり、安心して通れるようになったと言う。石碑には「南無妙法蓮華経」と大きく彫られているほか、建立した長者の名前もある。

簡易舗装された急な坂を下り。右側が明るく開けた八木沢の海岸や丸山が見える。もう一つの文政の道標を見て、右に大きくカーブして下り切ると国道に出る。ここに西伊豆歩道の案内板がある。案内板ではここが通り崎コースの終点となっている。(全長1.65km、約40分)。ここで終わっても交通の便がないので旧道を400mほど歩いた八木沢のバス停を終点とした。

バス停の手前に天神神社があるので詣でてみよう。小さな神社ではあるが見心のある彫刻がある。本殿の中には左藤伝兵衛作の「天女」正面には「翁媪酒を楽しむ図」と俳句の扁額が掲げられている。左藤伝兵衛は文政元年(1818)この地に生まれ、長じて宮大工となり伊豆・駿河の各地で社寺の造営に大きくかかわった人物で、同時に優れた彫刻師・絵師でもあった。号を環(たまき)または多満喜と称した。



コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	八木沢	15分	富士見園地	20分	土肥港	20分	土肥温泉	20分	バス	修善寺駅

●所要時間：約1時間50分



▲文政の道しるべ



▲翁媪酒を楽しむ図(天神神社)



23 西伊豆歩道(丸山コース)

西伊豆歩道丸山コースは、通り崎コースと合わせても4〜5程度なので1日コースとして歩くことはできる。

起点の八木沢までは修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで55分。車利用の場合は、丸山スポーツ公園の駐車場を利用して、帰りはバス利用で戻ることになる。

通り崎コースの終点・八木沢から海岸方面へ行くと八木沢漁港。西伊豆の明るい海と船だまりのある小さな漁村風景が見られる。浜橋、君沢橋の小さな橋を渡る。

防波堤につけられた舗装道が海岸線に沿って延びている。途中、左手に丸山スポーツ公園がある。ここは土肥桜とハマボウの群生地として知られている花名所である。1月には白と薄ピンク色の土肥桜が、7月にはハイビスカスに似た黄色いハマボウが咲く。

海岸に沿って15分ほど進むと左手に急な石段がある。約1300段ほどの長い階段を上り切り、小さな分岐を左に入ると丸山園地。山階大権現の鳥居と小さな社があり、丸山城跡の解説板がある。

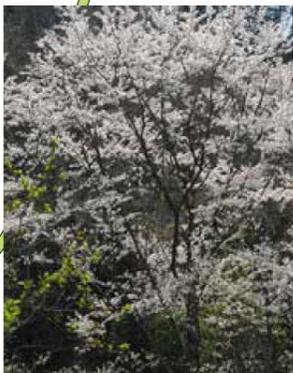
この城は北条氏に属した土肥・高谷城主富永氏の山城とされ、西に

対する沿岸防備の一翼を担う水車基地であったが(天正18年(1590))に豊臣水軍の攻撃を受けて落城したものとされています。ここにあるのは出城跡(旧城)で、本城跡(新城)は国道の南側の丘陵にあったと思われ、今でも、この周辺には0.6段〜1.2段、幅1段の土塁をめぐらした曲輪が見られます……」



▲丸山園地

分岐まで戻り左に下ると上ると国道に出る。車に注意して横断し道標の所から山道へと入る。石畳の敷かれた坂道を上って、道が平坦になると富士見園地。振り返ると、その名の通り富士山が見える。そばに「おこり石」とその解説板がある。休憩舎の所に道標。里山園地0.8 越



▲瀧桜二世



▲丸山園地からの富士山

丸山園地0.4 越。コンクリート製の水槽から右に曲がり、畑の中を下れば国道に出る。国道を左に行くとすぐに大久保のバス停があり、左手に眼病・イボ取りにご利益のある「地持地藏菩薩」が祀られている。参拝する時に、綺麗な水を持参し、お供えした後に祈願した水を持ち帰り、目やイボにつけるとよいといわれている。

大守院には弘法大師が数珠をかけたと言われる「数珠かけ石」と見える・言わざる・聞かざるの三猿が彫られた青面金剛の石碑(庚申塔)。庚申塔は、この石碑を左繩に纏った荒縄で縛ると、不思議と失せ物が出てくると言われている。

大守院の裏手の坂道を上って行く。石の敷かれた道を真っすぐ上り、車道を突っ切って更に上ると、また



▲富士見園地

駿河湾越しに富士山が望める海辺近くの自然遊歩道



▲里山園地からの展望



コースタイム(参考) 所要時間: 約1時間40分

修善寺駅	バス	5分	里山園地入口	バス	55分	修善寺駅
修善寺駅	バス	61分	丸山園地	バス	35分	丸山園地
丸山園地	バス	25分	丸山園地	バス	40分	丸山園地
丸山園地	バス	25分	丸山園地	バス	25分	丸山園地
丸山園地	バス	30分(往復)	丸山園地	バス	30分(往復)	丸山園地

24 西伊豆歩道(廻り崎コース)

廻り崎コースは富士見遊歩道と接続している。突端の廻り崎は通称「恋人岬」と呼ばれ、富士山と夕日の美しい岬である。ここで好きな人の名前を呼んでラブコールベルを鳴らすと愛が実ると言われている。この後、恋人岬事務所で「恋人宣言書」にサインすれば、「恋人宣言証明書」と記念品が、お二人が結婚すれば祝電と記念品がもらえるほか、数々の特典がある。

毎年、2月14日のバレンタインデーと3月14日のホワイトデーには、恋人たちを対象にしたイベントが行われる。

修善寺駅から松崎行き、長八美術館行きのバスで1時間3分、小下田で下車。コースの入口は国道を少し行った右手に案内板がある所であるがその前に「最福寺」へ寄ってほしい。最福寺には先代住職が私財を投じて作った資料館「夢の実現堂」(入館無料)があり、三舟(勝海舟・山岡鉄舟・高橋 泥舟)や三名僧(一休・白隱・良寛)の墨跡、当地出身の第14世本因坊秀和が使った囲碁セット、土肥出身、日本のカラー写真の開発者・長口宮吉の文献など、その他貴重な資料が展示されている。寺の入口には囲碁殿堂入りを果たした

コースタイム(参考)

修善寺駅	バス	小下田	40分	大早山	15分	富士見展望台(恋人岬)	15分	米崎港	15分	小下田	バス	修善寺駅
		小峰	40分	恋人岬	10分		15分		20分			
			40分		25分							

所要時間：約1時間25分



▲恋人岬



▲恋人岬ボードウォーク



▲イズサイフクジシダレ

コースの案内板から緩やかに簡易舗装された道を下る。段々になったお墓と金比羅神社の前を抜ける。正面にキラキラと輝く海と廻り崎が望める。時折、鐘の音が風に乗って聞こえてくるのは、岬の先端で恋人たちが鳴らすラブコールベルである。小さな橋を渡ると端正な顔をした石仏(馬頭観音)が1体。左手に「おかる滝」と呼ばれる小さな滝が落ちている。

道なりに下り、大きくカーブした先の分岐を左に下る。この辺りアウッドデッキの恋人岬は富士見展望台。北に土肥方面の山並み、そして洋上に浮かぶ富士山、遠く南アルプス。西に三保方面、駿河湾に行き交う漁船の姿もオモチャのように。デッキにはラブコールベルとプロングスの「コアモール」像があり、ひきりなしに訪れた恋人たちが鐘を鳴らしている。



▲ウバメガシの林

富士山を望む岬の先端で愛の鐘を鳴らし愛を確かめ合う恋人たちのメッカ

ロエの栽培が盛んなどころで、冬場にはあたり一面アロエの花だらけになる。

二つ目の小さな橋でまた分岐。その先に祠と不動の滝がある。分岐を右に下れば米崎の港だ。小さな漁村で港には数隻の漁船が係留されている。伊勢エビ漁が盛んで、秋の漁期には伊勢エビの水揚げ風景が見られる。

急な坂を上り、集落の外れから山道へと入る。米崎の集落を後にして急な舗装道を上ると分岐。左に上る道は恋人岬のバス停へ通じている。コースは右の山道を行く。マツ林や竹林を過ぎ海岸性特有の樹林の中を歩く。道が急になると富士見遊歩道・恋人岬へのボードウォークにぶつかる。階段を上って恋人岬へ。

舗装された坂を上り若山牧水の歌碑を見送ると、右にコースの案内板がある。真つすく行けば恋人岬のバス停へ行く。ちょっときつい丸太の段を上ると三等三角点のある大早山。丸太の段から敷石、山道となり、マツやメダケが繁る尾根道が続く。左に分岐を二つ見送ってウバメガシの林を丸太の段の上り下りを繰り返す舗装道(市道)の終点に出る。休憩舎がある所から畑の中の道を上り、再び舗装道に出たら右に上ればこのコースの終点・小峰のバス停。近くの民家に土肥桜の木がある。左に舗装道(市道)を行くと土肥桜の咲く花木園を経て恋人岬のバス停に上られる。



伊豆市のハイキングコースの花ごよみ

○見られる
●多く見られる

季節	春 (3~5月)					夏 (6~8月)				秋 (9~11月)			冬 (12~2月)					
	ワサビ	サクラ※	シャクナゲ☆	トウモロコシハッパ	マメザクラ	ヒメシャラ	アマギツツジ	タマアジサイ	トリカブト	イソギク	ツツブキ	紅葉	スイセン	ウメ	アロエ	ツバキ	菜の花	アセビ
ハイキングコース																		
1 修善寺温泉史跡・文学散歩		○		○				○				○	○	○		○	○	
2 いろは道～奥の院・桂大師		○		○	○			○				○	○	○		○	○	
3 桂谷 88ヶ所巡り		○		○	○			○				○	○	○		○	○	
4 修善寺歩道		○			○			○				○	○	○		○	○	○
5 金冠山 きよせの森		○		○	○		○	○	○			○			○		○	
6 達磨山		○		○	○			○				○						○
7 コビサワラ原生林	○	○					○	○	○			○			○	○	○	
8 天城シャクナゲコース		○	○	○	○	○	○	○	○			○						○
9 天城縦走		○	○	○	○	○	○	○	○			○						○
10 皮子平	○	○	○	○	○	○	○		○			○						○
11 湯道・熊野山 33 観音めぐり								○				○		○		○	○	
12 天城遊歩道	○	○						○				○		○		○	○	
13 吉奈～船原遊歩道		○						○				○	○		○	○		
14 狩野城跡		○						○				○			○	○		
15 太郎杉歩道	○	○						○	○			○		○		○		
16 踊子歩道	○	○						○				○		○		○	○	○
17 八丁池	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○
18 野鳥の森 八丁池		○	○	○	○	○	○	○	○			○						○
19 三筋山遊歩道		○	○	○				○				○			○			○
20 伊豆山稜線歩道 (1)		○	○	○	○	○	○	○				○						○
21 伊豆山稜線歩道 (2)		○		○	○	○	○	○				○						○
22 西伊豆歩道・通り崎コース		○						○		○	○	○	○	○	○	○	○	
23 西伊豆歩道・丸山コース	○	○						○		○	○	○	○	○	○	○	○	
24 西伊豆歩道・廻り崎コース	○	○						○		○	○	○	○	○	○	○	○	

※伊豆市で見られる桜はソメイヨシノ・オオシマザクラ・ヤマザクラ・修善寺桜・修善寺寒桜・土肥桜・滝桜園世・薄墨桜・サイフクジシダレなど。(マメザクラは別項に)
 ☆伊豆市で見られるシャクナゲは主に山間部では天城山の固有種であるアマギシャクナゲである。
 修善寺温泉街、修善寺 虹の郷、昭和の森グリーンガーデンでは主に西洋シャクナゲが主体である。

伊豆半島ジオパークの紹介



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

ジオパークとは？

ジオパークという言葉は、ギリシャ語で「地球」や「大地」を意味するジオと「公園」を意味するパークを組み合わせたものです。

地球活動によってできた自然や文化といった大地（ジオ）の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。大地の遺産を保護・保全し、教育・普及に活用し、持続的な地域の発展に取り組んでいる地域がジオパークを名乗ることができます。

伊豆半島ジオパーク

伊豆半島は、約2千万年前に本州からはるか南数百km先の太平洋の海底に沈む火山群でした。その後、フィリピン海プレートの北上の動きに合わせて、日本の本州に接近し衝突、伊豆半島が誕生しました。

この本州への衝突は、約60万年前に起こりました。衝突後は、20万年前までは、半島のいたるところで噴火が続き、本書に記載のある天城山や達磨山といった伊豆の大型火山が誕生し、現在の伊豆半島の骨格を形成しました。

伊豆半島には、地球形成の痕跡が多数あり、その痕跡を間近でみることができる世界的にも特異な地域です。

ハイキングを行いながら、伊豆半島が太平洋の海底に位置し本州から数百km離れていたことを想像し痕跡を探してみてください。

伊豆半島ジオパークに関する活動を行っている伊豆半島ジオパーク推進協議会では、ホームページで情報発信等を行っています。下記 QR コードから、ホームページへアクセスできます。また、伊豆半島ジオパークミュージアム『ジオリア』（伊豆市修善寺 838-1）も、ぜひご覧ください。

【問合せ先】

伊豆半島ジオパーク推進協議会



〒410-2416
伊豆市修善寺 838-1
TEL.0558-72-0520
FAX.0558-72-1355